

第2回南砺市立保育園審議会会議録

期 日 平成19年3月6日(火) 10時～11時45分

会 場 南砺市福野庁舎2階 201会議室

出席者

宮田 徹	会長	岩田 繁子	副会長
中田 勝治	委員	浅田 裕二	委員
水木 猛	委員	嶋 信一	委員
金田 悦子	委員	川上 優香	委員
際 優美子	委員	窪 有美子	委員
古瀬美奈子	委員	柄崎 篤香	委員
高輪 映子	委員	南 尚三	委員
横川 正希	委員	寺井 孝夫	委員

欠席者

小林 敏夫	委員	梧桐 朋恵	委員
中藪 淳一	委員	定村 弘	委員

市当局

溝口 進	市長	清都 邦夫	助役	山本 勝徳	収入役
向川 民生部長		斉藤 民生部次長			

事務局

森田 児童育成課長	岩見 同課主幹・保育園係長
伊東 同課副主幹	小橋 同課副主幹

会議内容

(開会)

森田課長

第2回の保育園審議会を開会いたします。まず市長がご挨拶いたします。

溝口市長

本日は足場の悪いところ委員の皆様にはご出席いただきましてありがとうございます。2月16日に射水市の大門きらら保育園を視察していただきました。今後の審議において、より中味を深めていただく参考となればと思っております。また、一部の地域において、小、中学校の統合を考えていただいております。何れも「どうしたら子どもがより幸せになれるのか」ということを考えていただきたく思っております。行政改革ばかりではないということです。南砺中央病院で2月末に女のお子さんが誕生し、今朝、男の子が一人生まれました。これは赤字とか黒字とかではなく、必要な事業は実施していかなければならないということです。保育園においてもサービスの向上を目指していくということでご審議いただきたいと思っております。本日の

審議におきまして重ねてご協力をお願いして挨拶とします。

森田課長 それでは、本日の審議に入りたいと思います。宮田会長さんお願いします。  
宮田会長 先日は、大門きらら保育園を視察いただきましてありがとうございました。  
会を重ねる毎にだんだんと委員の皆様のお顔もわかるようになってきました。  
目標とするところは、財政の効率化ばかりではなく、サービスの向上もセッ  
トにして実施していくものと思われます。  
それでは、年齢別児童数、保育園児数、入園率、配置職員数について説明く  
ださい。

森田課長 年齢別児童数、保育園児数、入園率調について資料に基づき説明。  
井波、福野、福光地域の該当児童数について資料に基づき説明。  
城端・平・上平・利賀・井口の各地域においては、3歳以上児については100%  
近くの子が保育園に入園している。その他の井波・福野・福光地域において  
は私立幼稚園に入園している子もあり、100%となっていない。また、福光地  
域においては、3歳未満児ばかりを保育している私立保育園が1園ある。入  
園率が100%以上になっているのは、南砺市以外の子が入園している「広域受  
託」や地域外の児童が一部入園していることによる。

園児数・職員等について資料に基づき説明。

配置人数は、園児に対する基準人員数の他に支援センター、一時保育、延長  
保育を実施している保育園にはその分の職員を配置しておりますので、加え  
た人数となっております。基準の人員数の小数点以下の数字は四捨五入とな  
り、定員90人以下の保育園は1人プラスするということと所長を加えた数字  
が基準の数字となります。基準に対して職員の配置は正職員の保育士ですが、  
正職員で全て賄いきれませんが保育士資格を持った臨時の保育士の方にお  
願いしており、合計した数字が職員配置計です。その他に調理員、栄養士、  
保健師を配置しております。それから産休・育休の保育士もあり、保育園毎  
に示しておりますが、それに対する保育士は補充しております。職員配置の  
数字が基準の数字より大きいのはそのような理由によるものです。一番右側  
は、19年4月1日見込みの入園児数です。これは、4月当初には、現在申し  
込みが続いていますので、若干数字が増えるものと思われます。見込園児数  
は1,545名です。資料の説明は以上です。

宮田会長 南砺市の保育園児・職員の状況について数字で表したものを説明いただきま  
した。本日は11時30分の終了を予定しております。この後の協議のところで  
「大門きらら保育園」視察の感想について時間を取りたいと思います。  
それでは、説明いただいた資料について質問をいただきたいと思われます。

委員 今、説明していただいた資料の中で、例えば資料の「井波地域の該当児童数」  
の3歳児において、市立保育園園児数57名と私立幼稚園園児数23名の合計

が 80 名であるが、地域全体の園児数が 71 名であるので、9 名多い。この 9 名は南砺市以外から入園している子どもなのか。

森田課長 南砺市の井波地域以外から来ているお子さんと市外から来ているお子さんとの合計の数字です。南砺市以外から市内の保育園に来ているお子さんは全部で 20 名です。これは、勤務先や実家が南砺市にあるということで受託しています。逆に南砺市以外に勤務先があるという場合は委託しており、市町村同士の契約で実施しております。最近はこういった事例が多いです。

委員 年齢毎の園児数に対する保育士の数は南砺市で決めているものなのか。

森田課長 国の基準で決めているものです。

委員 城端さくら保育園の例で言えば 1 歳児・2 歳児毎に計算して加えた保育士の数字は 10 人なのに、1 歳と 2 歳の園児数を足して計算しているのが 9 人になっている。小数点以下の数字は四捨五入ということかもしれないが、子どもを見守る点から言えば「引く」ということはないのではないか。数字としては間違っていないが、現状とは合わないのではないか。

森田課長 国の方で基準として示しているので合わせたもので出している。また、保育士の中には産休・育休を取っている者もあり、補充している。臨時保育士は、短時間勤務の者もあり、この表には概ね 6 時間以上勤務している保育士を計上している。今は保育ニーズも高まっており、早朝及び延長保育、障害のお子さん等にも状況をみて配慮している。基準としてみていただきたい。

宮田会長 国の配置基準に従っての配置や状況をみて配慮をしているということです。他にご質問はありませんか。

委員 園児数は平成 19 年 1 月の園児数と平成 19 年 4 月の園児見込数を比べると 60 名ほど減になるが、平成 18 年 1 月と比べるとどのようになるのか。

森田課長 平成 19 年 1 月と平成 19 年 4 月を比べると 60 名の減になるが、平成 18 年 4 月は 1,547 名、平成 19 年 4 月は 1,545 名であり、変わっていない。1 月が 4 月に比べて 60 名増えているのは近年途中入所が多いためであり、その結果としての数字である。

宮田会長 保育園は、小・中学校と違って年度途中の入所がある。南砺市は 60 名ほどの増加となっているが、少ない方である。平成 19 年度もそのような状況であると思われる。

委員 単年度だけでは、園児数はあまり減っていないと思われ一安心である。0・1・2 歳児いわゆる 3 歳未満児の子ども達の対応を考えていくことが必要であると思われる。その点をどのように考えているのか。

森田課長 3 歳未満児は当初は少ないが、途中入所が多い。その対応は、希望される保育園が一杯なら他の保育園を紹介したり、保育室を広げて受け入れている。保育士も正職員の数は限られているので、臨時保育士を雇用して対応している

が、今の状況では希望される保育園には入れない場合もある。

委員 福光ではどのような状況か。

森田課長 福光地域は、0歳児を受け入れている保育園は「福光保育園」と「吉江保育園」だけであるが、他の地域と違って、「喜志麻保育園」という私立の乳児専門の保育園があり、そちらへお願いしている。今後、私立ばかりではなく、他の公立でも受け入れるということであれば施設老朽化等の問題もあり、今後の整備計画の検討課題とっております。

宮田会長 「3歳未満児の入園希望の受け入れをどうするか」ということですが、今の古い施設では収容しきれない面や保育士の問題もある。昭和40～50年代の建物では対応しきれないという点もある。また、子育て支援センターで、家で子育てをしている方に「親子で出会う場を地域の中で提供する」うえでもこれからの課題となると思われます。

それでは、次の「協議事項」に移ります。先日視察をいたしまして、いろんな視点からの思いについて話し合いたいと思います。

委員 現場の事情はわからない面も多くあり、合併の経緯について聞いたかったが、射水市の担当課からの出席もなかったようで聞けなかったことが少しもの足りなかった。1保育園を見れば全てわかるものでもない。市内のさくら保育園についても機会があれば見学したい。この審議会の時期的な目途を立てていただきたいと思います。

清都助役 現在の時点では目途は立てていませんので、充分時間をかけて検討いただきたいと思います。「城端さくら保育園」も是非みていただきたい。山本収入役は、県の保育園所管課長を経験しており、情報にも詳しいので相談していただきたい。

委員 平成20年度から実施していくということを審議会で決めたらどうでしょうか。当局からははっきりとした時期は言えないのではないのでしょうか。「合併特例債」を見込まなければ実施できないとも思われ、期限もある。

委員 拙速は避けたいと思いますが、今後は効率の良い会合を重ねていきたいものです。

清都助役 地域の順番を決めて進めていけばよいのでしょうか。合併特例債も期限が7年以内ということもあり、重点地域を決めて進めていく方法もあります。城端や旧村地域は1園であり、合併の前後に整備しているので、さしあたっては「福野」「福光」「井波」地域になるのではないかと。

岩田副会長 城端地域で「さくら保育園」に統合した時にも「大門きらら保育園」を視察し、検討されました。その後保育園へのニーズも多様化しているため、新たな要望もあると思われます。老朽化した施設の改築、保育サービスの向上を目指して互いに歩み寄って早く前進したいと思います。

- 委員 「何故、城端地域で保育園が1箇所になったのか」という事ですが、その時の建設委員長ということもあり、説明いたします。城端地域の各保育園は施設が老朽化し、建て替えが必要になりました。その以前にも統合の話はありましたが、纏まりませんでした。既存の制度を破ることは大変であり、基準等で実施していくものでもありません。地域のニーズに合った保育園が必要です。最後に賛成したのは、「暖かみがあり、設備が充足している」という点において理解できたからです。各層からの意見をまとめる必要があります。保育園の運営委員会も定期的を開催していけば良い。皆さんが納得して、「いかに良くしていくか」ということを踏まえて進める必要があります。
- 宮田会長 経験を踏まえた貴重な意見をいただきました。当局から提案しにくい事情も理解でき、この会で方向を出す必要があると思います。大規模保育園、小規模保育園の良い点、悪い点を比較しながら進めていけばどうでしょうか。
- 委員 母親の立場で申し上げます。大門きらら保育園は、3箇所の保育園が統合し、200人の園児数から始まり、220人に増員となったにもかかわらず、施設の状況は変わっていないので子ども達が可哀そうだと思います。城端さくら保育園は定員が290人で287人の園児がおります。城端地域は、1世帯の子どもの人数も多く、共働きも多いので保育園に預ける親もたくさんおられます。0歳児の保育希望に答えられるのか。「大門きらら保育園」では施設内の遊び場が少なく、保育士がいろいろ工夫しておられた。建築した後は、状況に応じて改善していくことが大事ではないでしょうか。小規模保育園の良い所がわかっているので、大規模保育園の悪い所が思い当たります。
- 宮田会長 運営の中でコミュニケーションをとることを考えていくことが必要と思う。建築後は、支援のあり方を考えることも必要ではないかというご意見でした。
- 委員 この審議会は「統合を目的としているのか」ということを確認したいと思います。状況がわからないまま参加しましたので。
- 宮田会長 「南砺市保育園審議会条例」の第2条に「審議会は保育園の統合、民営化に関する事項について審議する」と示してあります。
- 委員 わかりました。大門きらら保育園は園舎がきれいで良かったが、現在子どもが通っている保育園は、施設は古いが内容は変わらなかった。
- 委員 子どもが行っている福野第一保育園は、園児数100人程度の保育園で規模が大きく誰がどこのクラスの子かもわからなかった。200人以上の保育園では不安と思いました。遊戯室は狭いと感じた。
- 委員 福野安居保育園へ子どもが行っているが、園児数が全部で18名と少ないが地域との結びつきが強い。地域内のりんご園へ行ったり、安居寺へ散歩に行ったりしている。保育園が大きくなると地域との繋がりも少なくなり、心の暖かみがなくなるように思う。しかし、子どもに「大きい保育園はどうか」と

- いと「たくさんの友達がいるといいなあ」と言っていました。
- 宮田会長 地域との結びつきも強いものがあると思います。
- 委員 今回の保育園は自然が沢山ありとても良い。大門きらら保育園は、自然が少なくさみしかった。園児数が少ない保育園にいと、大きい保育園では先生が多くの子どもを見守るのが大変ということもあり、あまり良いとはいえない。
- 委員 我が家の子どもは0歳から喜志麻保育園へ行っていたが、3歳になり吉江保育園へ行った時は「保育園へ行きたくない」と言いそれから1年たちました。吉江保育園は園児数が120人と多く、70～80人程度がよいのではないかという意見を保育士から聞きました。先生方が保育についてレベルアップしていただければ良いと思います。
- 宮田会長 昭和40～50年代の建物は0・1歳児についての受け入れの対応ができていません。小さい保育園ではローテーションが難しく、大きいと園児全部の顔が見えないということがあります。
- 委員 年長児の子どもがいます。年少から3年間過ごして参りましたが、今の城端さくら保育園に不満を感じたことはありません。施設は新しく、子どもも楽しそうにしています。城端地域の5箇所の地域が3つの建物に分かれていますが、全部の子ども達と交流しています。
- 委員 2番目の子も早く入園したが、細やかな保育をしてもらっています。但し、遊戯室は全員で遊ぶ場合は狭くてできないので、これからの保育園については考えていく必要があります。
- 委員 統合前の城端地域の保育園は老朽化しており、小規模保育園ということでもあった。地域住民のニーズに答えるということが基本ではないか。つい「大人の目線」で考えてしまうが、子どもの目線に立って実施することも大事ではないのか。保育のよりよい環境を考えるべきだ。
- 委員 保護者が本当に安心して預けられる保育園について勉強していくことが大切だと思う。この委員会は建設委員会ではないので、ハード面ではなく、考え方や進むべき方向というソフト面で考えることが大切だと思う。例えば、未満児を預けると、その保育園に医師が常駐していると安心できるとか、様々なことで安心、信頼を得る様な保育園にすることが大切だと思う。
- 宮田会長 「子どもの目線に立った保育園」「安心して預けられる保育園」等の目標を持って、見学等もまじえながら進めていきたい。
- 委員 ぜひ、城端さくら保育園も見学していただきたい。
- 向川部長 最初に「城端さくら保育園」の基本になった「大門きらら保育園」を見学していただきました。次に「城端さくら保育園」の見学を計画している。
- 清都助役 保護者代表の委員の方々は、是非19年度もお願いしたい。
- 宮田会長 これまでの内容を確認し、質問事項等をまとめて「城端さくら保育園」を視

察したいと思います。

岩田副会長 建設的なご意見を沢山聞かせていただき喜んでおります。市長からは行政改革ばかりではなく、保育サービスの向上という言葉もいただき嬉しく思っております。委員の皆様にも理解いただきながら進めていきたいと思っております。

森田課長 長時間ご審議いただき、ありがとうございます。今後は城端さくら保育園の視察も考えております。その際は、集合は現地でよろしいでしょうか。

(了承)

(11時45分終了)